

改訂新アジェンダ 21 かながわ

私たちの環境行動宣言

かながわエコ<sup>てん</sup>10トライ

平成 27 年 7 月

かながわ地球環境保全推進会議



## はじめに

「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」は、県民の皆さんの日々の生活、企業の皆さんの事業活動、行政の取組の中で、地球環境問題を自分のこととして考え、解決するための行動を、10の項目、90の行動メニューとしてとりまとめたものです。

私たちは、次の世代のために良好な環境を残さなければなりません。

それぞれの地域の特性に応じて、あるいは時代の変化に従って、そこに住む人々みんなが意見を持ち寄り、話し合いをとおして、未来を考え、お互いを思いやり、人間だけでなくすべての生き物が共に、幸せに生きる社会を具体化していくことが大切です。

一人ひとりの取組は小さなものでも、共に手を携え取り組んでいけば、やがてそれは大きなうねりとなり、「持続可能な社会」の実現につながります。

今、一步を踏み出し、私たちと一緒に「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」をしてみましょう。



## 目次

1	神奈川の持続可能な社会を目指して	2
2	長期的なビジョン（将来像）	4
3	具体的取組	6
	（1） エネルギー	
	行動宣言1 再生可能エネルギーの利用や省エネルギーの取組を拡大します	8
	（2） ごみ（廃棄物）	
	行動宣言2 3Rの取組を拡大します	12
	行動宣言3 廃棄物の適正処理を徹底します	15
	（3） そら（空）	
	行動宣言4 きれいな空気と星空をつくります	17
	（4） みず（水）	
	行動宣言5 将来にわたってきれいで豊かな水を確保します	19
	（5） みどり・つち（緑・土）	
	行動宣言6 里地里山、森林、水辺の豊かな自然を守る取組を拡大します	21
	行動宣言7 農林水産業への理解を深め、地産地消の取組を拡大します	23
	（6） まちづくり	
	行動宣言8 みんなが参加して環境と共生するまちをつくります	26
	（7） ライフスタイル	
	行動宣言9 環境に配慮したライフスタイルや事業活動を拡大します	28
	（8） 学び	
	行動宣言10 環境への関心を高め、学び、行動する人を増やします	31
4	推進体制	33
参考		
1	新アジェンダ21 かながわ策定後の動向	34
2	改訂の検討状況	42

## 経緯

1992（平成4）年に、リオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」で、持続可能な開発に関する原則を定めた「環境と開発に関するリオ宣言（リオ宣言）」が採択されるとともに、その実現を目指す行動計画として「アジェンダ21」が策定されました。

アジェンダ21では、「1996（平成8）年までに各国の地方公共団体の大半は地域住民と協議し、当該地域のための「ローカルアジェンダ21」について合意を形成すべきである。」という目標が設定されました。

これを受けて、神奈川県では、1993（平成5）年1月に、県民、企業、行政の三者で「かながわ地球環境保全推進会議」（以下、「推進会議」といいます。）を設立し、推進会議は、地球温暖化防止をはじめとする地球環境保全に取り組むための行動指針「アジェンダ21かながわ」を日本初のローカルアジェンダとして採択・策定しました。

その後、2003（平成15）年10月に、推進会議では、より実効ある行動を促進するため、「新たに神奈川に持続可能な社会を構築するためには、どのように行動したらよいか。」という観点で作成した「新アジェンダ21かながわ～持続可能な社会への道しるべ～」を採択・策定し、実践行動部会の設置やマイアジェンダ登録制度の普及など実践行動に向けた取組を進めてきました。

2011（平成23）年3月に発生した東北地方太平洋沖地震による災害及びそれに伴う原子力発電所事故による災害（以下「東日本大震災」といいます。）を契機に、エネルギーを取り巻く状況が大きく変化したことから、推進会議は、当面の間の行動指針として、「緊急行動宣言（緊急アジェンダ宣言）」を策定し、主に節電に係る取組を推進してきました。

「新アジェンダ21かながわ」策定後10年が経過し、生物多様性の保全や地球温暖化問題など、深刻化する地球規模の環境問題を解決し、持続可能な社会をつくり上げていくためには、私たち一人ひとりが環境に配慮した行動をとることがその一歩となります。

こうした観点から、推進会議は、2014（平成26）年8月に「新アジェンダ21かながわ改訂委員会」を設置して、「新アジェンダ21かながわ」の改訂を行いました。

改訂した新アジェンダ21かながわは、県民の皆さんにより親しみやすく取り組んでいただくため、名称を「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10（てん）トライ」としました。

## 1 神奈川の持続可能な社会を目指して

### 「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」の意味

神奈川で暮らすみんなで取り組む地球環境保全に係る行動指針であることから、親しみやすい名称とするため公募を行い、応募された名称候補を踏まえて決定しました。

「エコ10(てん)」は、行動宣言の項目が10個あること及び地球環境保全に取り組むきっかけとして、一人ひとりが90の行動メニューから、まずは10個の行動メニューを選んで「マイエコ10(てん)宣言」をつくり、実践することを表しています。

### 「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」の特徴



#### わかりやすい行動メニュー

「誰が」、「何を」、「どのように」するのかを明確にし、より皆さんが自発的に取り組めるメニューにしました。



#### 重点行動メニューや子どもが取り組める行動メニュー

たくさんの行動メニューの中から重点的に取り組む行動メニューや子ども(小学生)が取り組めるメニューをつくりました。



#### 社会環境の変化に対応した内容

「新アジェンダ21かながわ」策定後の社会環境の変化に対応して、今後必要と考えられる行動メニューを取り上げました。

### マイエコ10(てん)宣言

これまで、推進会議は、県民、企業、行政、団体等が環境配慮に向けて自主的に取り組む内容を公表し、登録する「マイアジェンダ登録制度」をつくり、実践行動を社会全体に広げていくことを目指してこれまで進めてきました。

マイアジェンダ登録の内容は、「新アジェンダ21かながわ」の行動メニューに基づいており、全35項目の“フルバージョン”と、10項目にしぼった“もったいないバージョン”、消費電力の削減に注目した“節電バージョン”の3種類がありました。

「私の環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」では、90の行動メニューから自分が取り組みたい項目を10個選んで宣言する「マイエコ10(てん)宣言」により取組を進めていきます。

10の行動宣言の項目から1つずつ行動メニューを選んだり、自分の興味のある分野を集中して選んだり、取り組みたい内容を宣言する、より皆さんの主体性を重んじた取組となっています。

まずは、10個のメニューに取り組み、新しいメニューにもどんどんトライして、取組を広げていくことができます。

この「マイエコ10(てん)宣言」の他にも、地域や様々な組織において取り組むこととした行動指針などがいろいろあります。私たちが目指す「持続可能な社会」の実現のためには「マイエコ10(てん)宣言」とともに、それらの取組にも積極的に参加することが必要です。

## 私たちが目指す社会

地球環境は悪化の一途をたどっており、このままでは取り返しのつかない事態に陥ります。これには大量生産、大量消費、大量廃棄に代表される私たちのライフスタイル(生活様式)が深く関係しています。

地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、熱帯雨林の減少、砂漠化、野生生物種の減少、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動などがさらに進行すれば、私たちの子や孫は、現在よりも劣悪な環境のなかで生活することを強いられます。

さらに、水や森林などの自然資源が枯渇してしまうと人間の生活に大きな影響を及ぼします。

地球規模でみると、現在でも貧困は解消されていません。世界人口70億人のうち、5.8人に1人が1日1ドル以下の生活をしています。

安全な水源を利用できない状況の中で暮らしている人々の数も約7億5千万人いるといわれます。

地域によっては、成長のために最低限必要な栄養やカロリーさえ摂ることもかなわず、命の危険にさらされている子どもたちが、たくさんいるのです。

現在と将来のあらゆる人々が、良好な環境のなかで安心して生活を送ることができる社会、それが持続可能な社会です。

「私たちの環境行動宣言 かながわエコ10(てん)トライ」が目指している到達点も、まさにそのような「持続可能な社会」です。

神奈川においても、約910万の人口をかかえ、県民経済は県内総生産(GDP)で約30兆2,500億円に達し、オーストリアやデンマークにも匹敵する活動が展開されている地域として、持続可能な社会の実現に向けた真剣な取組が求められています。

神奈川県民として、地球市民として、国境を越え、世代を越え、一人ひとりが身近なところから行動を起こしましょう。

